

# 首都圏段戸会会報

平成27年4月  
第35号

発行責任者  
首都圏段戸会  
会長 野村親信  
編集発行人  
広報担当 村木央明

## 第42回総会・懇親会報告

高35回 米津 智徳

昨年の天候とはうってかわり、爽やかな秋晴れの下、10月31日に第42回段戸会総会・懇親会がアルカディア市ヶ谷において開催されました。今年も230名におおよぶ20歳から88歳までの幅広い世代の方々に参加頂きました。

野村親信会長からは、この会の最初の開催（昭和47年）は学士会館であった等



四役の皆さん

の挨拶があり、続いて古澤武雄同窓会長、鈴木真成教頭からは、岡高創立120年行事・SSH（スーパードットサイエンス・ハイスクール）米国研修などのお話があり、「国際交流」が共通したキーワードであったと思います。

また、今年は2年に一度の四役改選の年であり、野村親信会長（高16回）、村木央明副会長（高19回）、上田洋子副会長（高22回）、織田利彦事務局長（高26回）、板谷敏正副事務局長（高34回）及び井上由美子副事務局長（高34回）の再選が承認されました。野村会長からは、月1回の夜の懇親も欠かさないチームワークの良い体制との話もありました。

招聘恩師は山田（水沢）澄江先生（保



山田（水沢）澄江先生

健体育）、生田省三先生（英語）、室（杉浦）庸子先生（家庭）の3名で、在籍時の思い出話や近況などに

「岡崎高校」という強い絆による懇親が会場いっぱいに広がりまし



古稀年次代表 神谷国広さん

ける苦労話、「新生児を助けた」という医師・看護師の思い等を熱く語られ、本当に心に残る講演でした。特に、「英雄視しないでほしい」と語った当時の熊本市長の言葉が、この問題の難しさの象徴のように感じました。

続く懇親会では、古稀年次代表の神谷国広さん（高15回）の楽しい挨拶も交えた乾杯に始まり、世代性別



講師 杉浦美奈子さん（高35回）

を「ご挨拶頂きました。そして今年、初の女性講師として杉浦美奈子さん（高35回）より、「赤ちゃん



生田省三先生



室（杉浦）庸子先生

た。また、今年も岡高グッズ（タオル、バッグ、ボールペン等）の販売もあり、現役の後輩たちを思う人たちがブースを取り囲んでいました。

締めくくりは、恒例の酒井邦彦さん（高28回）によるエルに始まり、段戸音楽会メンバーによる生演奏の下、高校時代を懐かしみながら校歌を全員で斉唱しました。最後に村木副会長の挨拶で閉会となり、来年の再会を約束し、終了となりました。

今回は、平成27年10月31日にアルカディア市ヶ谷にて開催予定です。未だ参加されていない方も、気楽にご参加下さい。お待ちしております。



校歌斉唱

「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。

公式ホームページ（H25年に変更しました） <http://dandokai.o.oo7.jp/>

首都圏段戸会

パソコンやスマートフォンが得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねて下さい。

古稀年次代表の一言

高15回 満江 信之

私たち15回生は古稀を迎え、第42回首都圏段戸会総会にご招待いただきました。皆様にご心からお礼申し上げます。

今回参加した同期は12名です。同期生と再会し、ある頃を懐かしく思い出しました。私が世話人となった15年前は私の(ラブ?)レターを添えての総会案内状にも全く反応もなく、ひとりぼっち参加が7年ほど続いておりました。同じく首都圏段戸会にも若干停滞ムードが漂っていたようで「もつと元気で魅力ある同窓会に変えよう。」との気運が高まり、世話人有志がちよくちよく新橋の集会所(飲み処)に集まっては夜更けまで活性化のアイデアと施策を熟くぶつけ合っておりまして。そして幾つかの「段戸サークル」(当時は「趣味の会)が立ち上がり、その後「段戸フォーラム」、「ホームページ開設」、「会報の一新」など活力ある魅力的な活動が展開されながら現在に至っております。特に若い世代の皆さんが積極的に参加されていることは好ましく嬉しいことと思っております。



高15回の皆さん(後列、筆者は右から4人目)

我が15回生も徐々に総会参加者が増え、今回の10名超えに結びついております。良かった。

です。

また毎年の講演会は、さすが岡高卒と感嘆する幅広い分野でご活躍の方々によるお話で心を引き付けられます。「こののりのゆりかご」『赤ちゃんポスト』の講演では、近頃の私たちは日常生活の様々な場面で遭遇している「生と死」をメディアから流れる夥しい情報の一つとして受け流してしまっているのではないだろうか。近年、感受性が貧弱になってきたような思いを持っていました。そんな思いに強い衝撃と課題を感じさせられたテーマでした。

20代から70代を超える半世紀に亘る世代の同窓生が集うこの首都圏段戸会が、これからも人生の癒しのヒトコマとなりますよう楽しみにしております。

総会出席者の一言

高17回 竹嶋 栄子

段戸会に参加する楽しみの一つは講演会です。日常生活で毎日何となく過ぎて、講演会などに出かけることは、まずありませんので期待して出かけます。毎回、感銘深いのですが、今回も感動しました。

「こののりのゆりかご」は忘れられないドラマでした。世の中にあつてほしくないこと、嫌なもの等、蓋をしてしまえば見えなくなるけれど、それでは救われない人々が大量にいます。今の時代に絶対に必要な施設だと思います。ただ、本当に高い使命感と倫理観が無いと、とんでもない施設になり兼ねない問題もはらんでいます。その制作に大きく関わり大変な苦勞をされた方が同窓の後輩であることに改めて感動し誇りに思いました。毎回の講師の方に限らず、いろいろな

分野の第一線で活躍している方々が大勢で頼もしい限りです。社交的だった夫に誘われて初めて段戸会に出席したのは30年位前になります。はじめは、夫の友人の輪に入れて貰って、場違いな感じでしたが、それでも毎年出る事によって徐々に同期の親しい友人たちが出来ました。旧交を温めるといふより新しく出来た友人です。今回は、懐かしい夫の友人の息子さんにも会うことが出来、大活躍なさっていることをしり嬉しい限りです。同じテーブルになった方々は、まだ大学生。希望にあふれた後輩の躍進が本当に

楽しみです。これから健康にも、健康に気をつけて、一年でも長く出席できるように、頑張りたいと思います。



同期の方と一緒に(筆者は右)

高29回 三橋 桂子

大変お世話になった英語教諭の生田先生がゲストであることを知り、今年初の首都圏段戸会に参加したいなと思いましたが、私は首都圏段戸会には10年ほど前に一度参加したことがあるのですが、正直同期の友人の参加がほとんどなくて寂しい思いをしました。今年は参加するにあたり、同期に声をかけてみようと思いいちました。

8年ほど前より、年に何度か一緒に飲み会をしている同期の仲間たちがいます。卒業後30年もの間ほとんど音沙汰なかったのにふとしたキッカケでツナガリができました。それ以来異動や昇進があるとそれに託けて飲む機会を作っては会って

飲んでいる仲間です。

今回、彼らに声掛けしたところ、たまに予定が空いていた4名が話に乗ってくれました。うち3名は初めての参加。皆が異口同音に言っていたのは、先輩方のお元気なこと、岡崎高校に対する愛校精神、誇り高さに圧倒される、ということ



筆者(左)と海野寿美さん(高29回)

とです。参加者の皆様の中心では我々はまだまだ未熟もなので、人生まだこれからと叱咤激励をいただいた気がいたします。

高36回 平松 理生

今回、同期の鈴木貴之君(野村證券執行役員)と誘い合せて、首都圏段戸会に初めて参加させていただきました。同期の参加は2名で少し残念でしたが、元野村證券の外村さん、東海光学の古澤会長といった重鎮の先輩方から、1期上の古澤さん、今回講演された杉浦さん、また大和証券の内藤さんといったほんとうに若い方まで、幅広い年齢の方々とお近づきになれて、大変有意義でした。

私自身、高校時代は受験勉強に明け暮れた思い出が強く、友達付き合いもあまりしてこなかったタイプの人間で、同窓会も正直、昨年の岡崎での参加が初めてでした。なので、今回、ちよつと斜に



筆者は左から2人目



構えた気持ちで臨んだのですが、まったく初対面であっても、同窓生ということだけで皆さん気さくにお話をしていただき、とてもリラックスして参加できました。

昨年の岡崎での同窓会で、約30年ぶりに同期の面々とお会いしましたが、同期だけでなく上にも下にも人のネットワークを広げる機会を提供することが同窓会の意義であるとしたら、全く狙いどおりの結果であったと思います。とは言っても、同期メンバーが多いほうが盛り上がりと思いましたが、来年はもう少し同期に声を掛けて、参加できればと思っています。

◆ 高43回 倉内 雅弘

高校卒業と同時に愛知を離れ十数年、三河弁も忘れてしまいそうになっていた頃、首都圏段戸会の世話人に加えていただきました。仕事に少し余裕ができたせいか、あるいは偶然職場に愛知出身者がいたせいか、愛知の特に西三河の話題に敏感になっていった時分で、世話人の集まりは心和む時間でした。それが6年半前に東京から札幌に移住することになり、地元の縁がますます薄まっていくところでしたが、首都圏段戸会が繋ぎ止めてくれていました。



松尾直樹さん(高44回)と筆者(右)

札幌に来てからはまた余裕もなくなり、総会には参加できずにおりましたが、この春に起業してあれこれと考える時間ができ、今回久しぶりに総会に参加させていただきます。参加にあたっては、せつ

かくの機会だからとSNSで同期を誘ってみました。残念ながら今回は私のほかもう一名のみの参加でしたが、それでも行ける、行けないと連絡を取り合うのも楽しいものです。

皆さんの最近のご活躍の様子は、SNS等を通じて見聞きできるようにはなりました。これは遠隔地に住む者としてはたいへんうれしい限りです。一方で、総会はその絆が本物だと確認させてくれる場なんだと、今回の参加で感じました。来年も同期を誘って参加したいと思っています。

◆ 高65回 村松 旺



同期の方と一緒に(筆者は中央)

僕が首都圏段戸会総会・懇親会に参加させていたたいたくのは昨年になり二回目になりました。昨年は初めての参加で、かつ同級生もいなかったのでも緊張しながら恐る恐る行ってみたのですが、段戸会の方々はとても暖かく迎え入れてくださり、とても楽しい時間を過ごせたことは今でもはっきり覚えてます。今年も二回目ということもあり、昨年に比べて落ち着いて楽しむことができました。

この段戸会の一番の大きな魅力は、現役の大学生から仕事を定年退職された方まで、幅広い年齢の参加者がいることだと思っています。最初は、年齢の離れた方々と話があるのだろうかという不安がありました。年齢が違ってもいえること、みんなもともとは同高生。全員同じ学び舎で育ったという共通のバックグラウンドが背景にはあるので、年齢の差など忘れ

てしまうほど話は盛り上がりません。また段戸会に参加されている社会人は社会で活躍されて、またはされた経験のある方々ばかりなので、仕事の話や社会のことなど、普段の学生生活では聞くことのできないありがたいお話を聞けます。これは学生という身分からしたら活かすほかないと思います。現在大学生の参加者はそれほど多くないので、もっと参加していただきたいと切に願っています。いまからもうすでに来年の会が楽しみです。

◆ 第42回総会議事報告

(平成26年10月開催)

◆ 四役の改選

本総会で四役改選が行われ、

会長	野村 親信(高16回)
副会長	村木 央明(高19回)
副会長	上田 洋子(高22回)
事務局長	織田 利彦(高26回)
副事務局長	板谷 敏正(高34回)
副事務局長	井上由美子(高34回)

の各氏が再選されました。

なお、前副事務局長の天野隆太郎さん(高20回)は、企画担当専任となりました。

◆ 次回の第43回首都圏段戸会総会・懇親会の予定

日時 平成27年10月31日(土)  
13:00~17:00  
(開始時間、終了時間は変更される可能性があります。)

場所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)  
東京都千代田区九段下北4-2-25  
Tel: 03-3261-9921

◆ 総会の写真がホームページから見られます!

- 1 首都圏段戸会ホームページの左側にある「写真集」のボタンを押す。
- 2 「新着写真」の中の「2014年 第42回首都圏段戸会総会」を押す。
- 3 田中さんの写真は、「田中さんの写真はこちらをご覧ください」の「こちら」を押す。

首都圏段戸会ホームページのURL:

<http://dandokai.o.oo7.jp/>

第42回 首都圏段戸会総会・懇親会出席者 (平成26年10月開催)

来賓(高33回)	鈴木真成		満江信之	山田智男		吉村裕美子	
来賓(高14回)	古澤武雄	(高16回)	大山達雄	鈴木弘恵	(高34回)	浅井珠美 板谷敏正	
(恩 師)	山田澄江	生田省三	南郷健治	野村親信		井上由美子 柘植千明	
	室 庸子		横井昭親			長谷部誠 森 俊二	
(中47回)	神谷和郎	(高17回)	伊与田正彦	竹嶋栄子		吉村玲子	
(高2・中51回)	青山敦夫	石川耕春	武藤隆子	山田博子	(高35回)	池田知美 板倉信吾	
	太田 久	服部 登	(高18回)	伊藤博邦	音部昌宏	井上和子 大貫晋吾	
(高3・併23回)	小澤一郎	鏑木道子	清水久雄	杉山孝博		岡田敦嗣 佐藤千矢子	
	久保雅之	後藤三千代	山内 恵			渋谷禎則 菅 伸介	
	高木次男	丹羽 鼎	(高19回)	安藤 昭	石樽直美	鈴木俊英 竹尾 誠	
	松井淳子		岡部芳郎	木下武司		中野美奈子 久永直人	
(高6回)	有馬弘政	長瀬けい子	都築正行	南郷 孝		古澤昌宏	
(高7回)	青山明博	市川 毅	福島安史	宮崎収兄	(高36回)	鈴木貴之 平松理生	
	近藤 衛	斎藤悦子	村木央明		(高37回)	金田憲和	
	杉山 修	是津定利	(高20回)	天野隆太郎	伊与田あさ子	(高38回)	内田 力 佐野 均
	高橋里恵子	富田昌光	遠藤 昇	神尾由恵		中西和幸 桃井聖司	
	永田綾子	羽谷 允	北野光敏	辻村貴典	(高40回)	大田 武 安田幸代	
	吹抜敬彦	村田與市	兵藤秀和	山本良二	(高41回)	西川陽子	
	森 周子		(高21回)	渥美忠男	天野 茂	(高42回)	小西玄一
(高8回)	工藤圭章	高橋道人	大水 博	小栗恵子	(高43回)	倉内雅弘 比護結子	
	田中厚生	外村 仁	清水照雄	徳田 登	(高44回)	松尾直樹 松田晴光	
(高9回)	岡田敏夫	高木治子	内藤良江	兵藤幸治	(高45回)	筒井貴之 西浦瑞恵	
(高10回)	山川肇爾		山田俊文		(高46回)	大川 博 高橋昭紀	
(高11回)	今井哲夫	梅村豊子	(高22回)	上田洋子	酒井真知子	(高47回)	酒井康博 杉本いづみ
	太田栄之	清水豊夫	程田さとる			(高48回)	羽佐田泰弘 藤井晋也
	永田 宏	中根 淳	(高23回)	小田利枝子		(高49回)	小林正憲 丹羽 尚
	服部豊治	林 泰子	(高25回)	戸田讓三		(高50回)	小林哲郎 鳥居福代
	山崎宣典		(高26回)	大山幸信	織田利彦	(高52回)	今泉 勇 近藤佳子
(高12回)	稲垣早苗	鶴田尚弘	小島祐子			(高53回)	辻内直子
	鶴田文男	成瀬 徹	(高27回)	大久保玉恵	長田光雄	(高54回)	安藤康伸 岡田尚博
	吹抜洋司		藤原波一	山崎正枝		加藤直也 丸山晃正	
(高13回)	小森葆子	神道千秋	山田和生			(高57回)	小田亜矢子 加納実久
	杉原 洋	中 浩之	(高28回)	三枝奈芳紀	酒井邦彦		川口敦子 重光章鈞
	本多正之		長坂光司			(高58回)	石川航己
(高14回)	天野 彰	磯尾 進	(高29回)	海野寿美	神田裕二	(高60回)	渥美翔太郎 稲垣匡志
	磯村澄江	金澤忠幸	白井克始	鈴木匡哉		岩月泰典 遠藤寛士	
	糸田輝義	斉藤 明	三橋桂子			杉浦綾香 内藤恵子	
	笹瀬 修	中野元雄	(高30回)	石川定雄	岡本和也		中村俊也 藪押知美
	中島綾子	水谷鏡子	木村美穂子	中野宏信		(高61回)	野島大輔
(高15回)	雨宮誉夫	太田征男	米津智徳			(高63回)	上田一博 河合正貴
	尾崎寛人	加藤良子	(高31回)	石田満理	岩間由紀		杉原裕子
	神谷国広	後藤守孝	高原正之	野木村美紀		(高64回)	小濱直也
	佐野公治	杉崎慎一郎	(高33回)	野村 明	藤野真司	(高65回)	村田有実子 村松 旺
	鶴田瑞枝	本多 健	松田かおり	山本守正		渡邊寿理	



人生お楽しみ中!

暮らしの不便を解消する  
道具の発掘

高16回 鈴木 弘恵  
(旧姓：黒川)

子供が中学生の頃、民族学博物館で縄文時代のしゃもじを見て、いま私たちが使っているものとはとんど違うことに驚いた。もともとキッチン雑貨が好きだったが、これを契機にモノの背景に潜む暮らしの機微のようなものに興味を持ち、当時発足した道具学会に入会した。仏具、茶道具にはじまる、まさに「道に具える」道具道を極めてみたいとまずは「しゃもじ」探検を始めた。

道具学会では道具学専門家の案内でアメリカのフォードミュージアムやスミソニアン、ロンドン博物館、リヨンの洗濯博物館、100年以上続くパリの日用雑貨品店、シカゴの老舗百貨店、中国の雲南やインドネシアのバリ、韓国、台湾の民俗博物館などを訪れて道具の世界を満喫した。

そのうち刈谷市に住む両親が老齢となり、帰省する回数が増えてきた。歳を取って手先がうまく働かなくなった母に「皮むき」を渡したとき「道具だねー」といった言葉が忘れられない。ヨーグルトやゼリーを口元にうまく運べなかったり、薬を飲み込むのに手間どった母に途方に暮れたこともしばしばだった。母が亡くなって父と東京で同居をはじめたが、スプーン一本、風呂椅子ひとつ選ぶにしても、本人その時の状況にあうモノを見

つけるのに難しさを感じていた。

そんな折、私が出会った道具選びのキーワードが「ユニバーサルデザイン(UD)」である。UDは1985年ノースカロライナ州立大学のロナルドメイソ氏の提唱したUD7原則を基本とした概念で、障がいの有無にかかわらず、人々が気持ちよく使えるように都市や生活環境を計画する考え方である。

私自身がシニアとなった今、UD商品はもとより、日常の暮らしの不満や不安を解決する道具の発掘にはますます熱がはいっている。現在は「湘南くらしのUD商品研究室」(<http://www.shonan-ud.com>)に所属して主任研究員を務めているほか、朝日新聞でくらしのコラム「そばに置きたい」を連載している。

老後は(いまでもしょ!)大人(老人、じゃなくって!)の定番100のような形にまとめて発表できたらと、夢みているところである。



1993.11 論文授賞式にて

美しい日本語と香り高い歌を

高8回 松本 満紀子  
(旧姓：吉田)

50年余り前の夏のある日、教育系大学の卒業演奏の勉強にと音大の夏期講習に出てみた。そこで日本歌曲の先駆者四家文子(よつやふみこ)先生に出会った。講習最終日の帰り際に「きちんと声楽の勉強をしませんか」と声を掛けられ、思わず「ハイ」と返事をしてしまった。当時、芸大と国立音大で教鞭をとっておられた四家先生は芸大の内地留学制度を勧め下されたが、さすがにそれは辞退し、国立音大で勉強することにした。学資の事もあり、先生の紹介で藤原歌劇団などに所属し、オペラやミュージカルの仕事を楽しみながらこの世界の素晴らしさ、危うさ等を学んだ。

音大卒業に伴い、先生のお世話で名古屋に新設された音楽学校に就職した。ここでは過分のお給料を頂きながら高名な先生方のご指導も受けることができ、その音楽に対する真摯な探求心と情熱をひしひしと感じた。

その頃、日本語の乱れに心を痛めていた四家先生が心ある詩人・作曲家・歌い手・言語学者などに呼びかけて「波の会」(現波の会日本歌曲振興会\*)を立ち上げた。私も参加し、教職のかたわら多くの先生方の指導を受けながら細々とではあるが活動を続けてきた。この会は新しい日本歌曲を生み出し、波のように広めようという運動体で、本稿のタイトル「美しい日本語と香り高い歌を」は会のスローガンである。

波の会関係の演奏会の他は、地域の

ファミリーコンサート的な音楽会や、まばたきの詩人水野源三さんの信仰詩を中心にしたチャペルコンサートなどを数多く行ってきた。

教職を定年退職して時間に余裕ができた今、波の会の役員として会にささやかな恩返しをしている。また、2009年から毎年秋に、日々生み出される新しい日本歌曲の紹介を中心としたリサイタル「途(みち)にて」を個人の仕事として開催している。作曲家の強力な後押しを受けているとはいえ、詩人や作曲家が精魂を込めて創った曲を初演するのは大変なプレッシャーであるが、大きな喜びでもあるのです。

私にとって歌の道は永遠に「途にて」であり、幸せの光なのである。店じまいの日も遠くないと思いつつ……

\*1..昭和41年設立。本部は東京、全国に6つの支部がある。平成16年に社団法人に認定されたが、公益法人の事業仕分けで公益性が少ないとして一般社団に格下げになった。内閣府からは芸術性よりエンターテイメントの要素を強くして儲かることをせよとの指導が入っているが……



銀座・王子ホールにて

なぜこの仕事を？—「フレンチ」の巻

高52回 清水 雄太

私は今、クックパッドという企業でエンジニアとして働いています。

クックパッドは毎日の料理を「楽しみ」にするために、一般の方々が投稿した料理のレシピを閲覧したり、実際に作った感想を共有したりすることができ、レシピサイトをインターネット上で提供しています。インターネットが広まりつつあった1998年からサービスを開始し、今では延べ月間利用者数5,000万人、投稿されたレシピも190万品を超えるほどになりました。

私が今の仕事を選んだ理由は、より多くの方の幸せのお手伝いができるサービスに深く関わりたいという想いがあったからです。ほとんどの仕事はその条件を満たしていると思いますが、私にとって「食」、特に「料理」に関わる仕事に就くことには少し特別な想いがあります。

私の両親はともに実家が飲食店だったこともあり（ちなみに今、両親は安城市で「旬肴房もっきんど」という飲食店を夫婦で営んでいます）、私にとって料理はありふれた、あたりまえの風景でした。しかし、最近では共働きで時間が少なくなったり、核家族化によって、親から子へ料理を伝える機会が減ってしまったりして、このままでは親が料理を作ることは減ってしまうのかも、ある意味それも時代の流れなのかな、と気にかけていました。

そんなときにクックパッドを知りまし

た。ここには実用的なレシピがたくさんあり、主婦を中心に、交流しながらみんなが日々料理を楽しんでいる、そんな場がありました。お互いの家庭の味が混ざり合い、新しい家庭の味を生み出しているのです。

その姿に共感し、私は約5年半前にクックパッドに転職しました。

当時、偶然にもクックパッドが上場する直前のタイミングで、まだ50名ほどの会社規模でした。上場を機に会社がどんどん成長していく過程で、いろいろな部署でさまざまな業務を担当することに。専門外の仕事にも携わることになり、失敗も悔しい思いもたくさんしましたけれど、視野が広がりました。

今はクックパッドで提供されているサービスの企画・開発に携わっています。利用者の立場をとことん考え抜いてものづくりをし、結果は数字となつてすぐ表れます。

変化の速い実力主義の業界で、世界中のエンジニアが仲間であり、ライバル。そんな刺激的な環境の中で、日本だけでなく、世界中の方々も含めて、一人でも多くの方に料理の楽しさを感じていただけるようなサービスを目指しています。



高54回 岡田 尚博

栃木県の山奥にある大手電機メーカーの工場で経理をしていた頃は、自分が都心のベンチャー企業でスマートフォン向けのゲームを作ることになるなんて全く予想していませんでした。

大学生の頃は、正直に言って何もやりたいことがありませんでした。普通に就職活動をするようになったのですが、周囲の意見に流されて、なんとなく大きな会社に入るこだけ考えていたように思います。会計学専攻で一時期公認会計士を目指していたこともあり、富士通株式会社の経理部に入社します。

最初に配属されたのは本社経理部でしたが、その後経理部としてのキャリアを積むために栃木県にある携帯電話工場に異動となりました。そこで初めて現場の経理という仕事を体験するのですが、一生を経理マンとして終わる自分に違和感を覚え始めます。経理のようにやり方の決まった仕事をこなす仕事ではなく、自分で何をどうやってすべきかを考えるような仕事をしたいと思うようになったからです。

グリー株式会社への転職が決まったのですが、この転職でも有名な会社に入ろうとする気持ちは抜けていなかったような気がします。六本木ヒルズのオフィスで当初は企画職として働いていましたが、より専門的な業務でスキルを磨きたいと思い、その後社内制度を使ってアナリス

トに転身します。しばらくして、これも本当に自分がや

りたいことじゃない気がしてきました。5年後の自分が想像できなくなっていたのです。既に30歳を過ぎて大きな方向転換はこれが最後のチャンスだと思い、初めて自分と真剣に向き合ったように思います。そこで辿りついた答えがゲーム制作でした。実はずっとやりたいと思っていたのに、その気持ちを無自覚に封印していたことに気づきました。また、今までの経験から組織化された大企業は向いていないことにも気づいていたので、ベンチャー企業に飛び込む決意もしました。

現在はゲームディレクターとして、新規ゲームタイトルの企画業務にあたっています。本当の意味で自分で選んだ道だからこそ、今は毎日楽しく頑張っていると感じています。振り返ってみると、自分のやりたいことに辿りつくまでにひどく時間がかかってしまったような気がしています。もし今、大学生時代の自分に会えるとしたら、一日でも早く自分のやりたいことを見つけること、そしてそれを見つけたら何も気にせずそこに向かって最短距離で進むことをアドバイスしてあげたいと思っています。



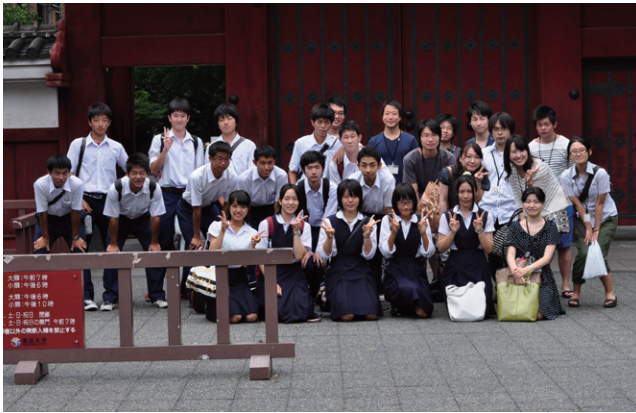


平成26年度 オープンキャンパス開催報告

高60回 杉浦 綾香

毎年恒例となった、岡高卒業生による東大オープンキャンパス。岡高から参加したのは主に高校2年生。実際に受験をするのはまだ先だが、少しずつ気になり始めている頃だろう。具体的に進学したい学部を決めていて話を聞きたい生徒や、東大の雰囲気を知りたい生徒、受験勉強で悩んでいて相談したい生徒など、様々な目的をもってこのオープンキャンパスに参加をしていた。案内した卒業生も、学部生から修士・博士課程と幅広く集まったため、受験の話だけではなく、大学での研究の話や就職の話など、様々な質問と回答が飛び交った。

岡高からすれば、東京大学は距離的にも遠く、そこにいる学生はなかなか会うことのできない存在。さらに、受験のことばかり考えていると入ってくる情報は、大学の偏差値と学部分のこのオープンキャンパスでは、実際に大学構内を歩いて研究室を見学でき、同じ高校から東大にいる先輩が親身に相談に答えてくれる。自



分が高校生の頃にはそのような機会は無かったので、正直今の生徒を羨ましいと思いつつ、卒業生としてオープンキャンパスをずっと続けていかなければと思う。生徒達は参加したことで、単に受験をして入る対象として大学を見るのではなく、大学で何をしたいか、について考える機会をえられたようだ。東大にあるほとんどの学部から卒業生が参加したため、それぞれの学部でなにをやっているのか、という具体的な話を聞く事で、自分が入りたいと思う学部学科を見つけた生徒もいた。さらに、卒業生のアドバイスは受験だけではなく、勉強以外に打ち込める何かを見つけるといい、自分の好きなことを突き進めればいい、見聞きするだけではなく自分の体を使ってやってみることが大事、と人生論にまで突入。もちろん、受験を終えたからこそ余言ではあるものの、それらを聞いて生徒たちは新たな気持ちで高校生活に臨んでいるらしい。是非、現役の生徒達には、受験を乗り越え、高校生活を存分に楽しんでから、大学生活の楽しさを味わいにきてほしい。

段戸フォーラム報告 (第20回)

首都圏段戸会では、経済・政治・文化・学術などの各界で活躍する会員の方を講師とした勉強会「段戸フォーラム」を定期的に開催しています。参加は自由で、平日の夕刻に会員有志が集まり、研究を深めるとともに熱心な意見交換も行っています。昨年までに19回の開催を数えており、様々な講師の先生に登場いただくとともに毎回大勢の方が参加しています。

20回目の節目となる今回のフォーラムは、日本を取り巻く国際的なエネルギー情勢の現状と未来をテーマに昨年8月6日東京都港区商工会館にて開催されました。講師は、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) 理事である藤野真司氏 (高33回)。同氏は、東京大学大学院理学系研究科修士課程修了後、昭和62年4月に通商産業省 (当時) 入省。その後2008年からは国際エネルギー機関 (IEA) フランス共和国 (パリ市) で活躍され、昨年4月から現職に就任されています。

本フォーラム前半では、エネルギー分野の第一人者であるとともに国際通でもある同氏より、新興国などによるエネルギーの獲得競争、資源保有国における資源ナシヨナリスムの高揚、北米での



講師 藤野真司さん (高33回) シヨナリスムの高揚、北米での

シェールガス革命、我が国での大震災以降のエネルギーの構造変化など、世界的かつ最新の潮流を紹介していただきました。

後半は、同氏の経験も交えた我が国におけるエネルギー分野の最新政策などについて紹介いただきました。原油や天然ガスなどのエネルギーの大宗を輸入に頼っている我が国においては、エネルギー・資源問題は現在もまた未来においても重要なテーマであることを再認識する機会となりました。講演終了後は会場を「居酒屋」に移動、さらに活発な意見交換が行われるとともに段戸会ミニ同窓会としてもおおいに盛り上がるのでございました。

今後このような形式の段戸フォーラムを定期開催する予定ですのでご興味のある方は是非ご参加ください。(板谷)



平成26年度 首都圏段戸会 会計報告・監査報告

会計及び会計監査の皆さんのご尽力により、平成26年度会計報告及び監査報告がまとまりましたので、ご報告いたします。  
 なお、会計報告・監査報告は、次回の第43回首都圏段戸会総会（平成27年10月31日開催）において、報告内容を説明し、会員の承認を経て、最終的に確定いたします。

貸借対照表

平成26年12月31日現在 (単位：円)

科 目	金 額	金 額
I 資産の部		
現 金	0	
通 常 貯 金	1,641,532	
郵 便 振 替	1,920	
資 産 合 計		1,643,452
II 負債の部		
未 払 金	0	
負 債 計		0
III 正味財産の部		
正 味 財 産		1,643,452
負債及び正味財産合計		1,643,452

収支計算書

平成26年1月1日から平成26年12月31日まで (単位：円)

科 目	金 額	金 額
I 収入の部		
02月総会懇親会費収入	1,247,000	
02月総会時運営協力金	241,000	
10月総会懇親会費収入	1,271,000	
10月総会時運営協力金	265,000	
運 営 協 力 金	1,074,000	
運 寄 付 金	80,000	
取 扱 利 息	288	
そ の 他	20,900	
当 期 収 入 合 計		4,199,188
II 支出の部		
02月総会懇親会費用	1,272,654	
10月総会懇親会費用	1,445,817	
会 報 費	795,136	
世 話 人 会 費	140,070	
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス	11,580	
H P 運 営 費	24,782	
雑 費	47,207	
送 金 振 込 手 数 料	39,720	
当 期 支 出 合 計		3,776,966
当 期 収 支 差 額		422,222
前 期 繰 越 収 支 差 額		1,221,230
次 期 繰 越 収 支 差 額		1,643,452

監査報告書

首都圏段戸会の平成26年度（自平成26年1月1日 至平成26年12月31日）の計算書類は適正かつ正確であることを確認いたしました。

平成27年1月30日

会計監査 辻村 貴典  
 会計監査 戸田 謙三

平成26年度世話人

- (高2回)服部 登
- (高3回)丹羽 鼎
- (高6回)有馬 弘政
- (高7回)是津 定利
- (高8回)杉浦 嘉久
- 田中 厚生 広報
- (高9回)岡田 敏夫
- (高10回)山川 肇爾
- (高11回)永田 宏
- 中根 淳
- (高12回)鶴田 文男
- 成瀬 徹
- (高13回)中 浩之
- (高14回)磯尾 進
- 水谷 鏡子
- (高15回)神谷 国広
- 満江 信之
- (高16回)鈴木 弘恵
- 野村 親信 会長

- 横井 昭親
- (高17回)伊与田 正彦
- 山田 博子
- (高18回)伊藤 博邦
- 音部 昌宏 広報
- 山内 恵 会計
- (高19回)都築 正行 情報
- 福山 透 副会長・広報
- 村木 央明 企画
- (高20回)天野 隆太郎 企画監査
- 辻村 貴典
- (高21回)小栗 恵子
- 山田 俊文 副会長・書記
- (高22回)上田 洋子 会計
- (高23回)野々 山浩 会計監査
- (高25回)戸田 譲三 事務局長・企画
- (高26回)織田 利彦 会計
- (高27回)長田 光雄
- (高28回)酒井 邦彦
- (高30回)米津 智徳
- (高31回)高原 正之 企画

- (高33回)野村 明 副事務局長・情報
- (高34回)板谷 敏正 企画・事務局長・企画
- 井上由美子
- (高35回)岡田 敦嗣 会員
- 菅 伸介
- (高38回)内田 力
- 中西 和幸
- (高40回)大田 武 会計
- (高42回)長野 麻子 広報
- (高43回)八田 益之
- (高44回)松尾 直樹 企画
- (高45回)筒井 貴之 情報
- 西浦 瑞恵
- (高46回)朝岡 大輔
- 大川 博
- 小椋 俊博
- (高47回)杉本 いづみ 会員
- (高48回)藤井 晋也
- (高50回)鳥居 福代 情報
- (高52回)今泉 貴雅
- 清水 雄太 情報

- 近藤 佳子 広報
- (高53回)小野 靖王
- 石井 貴大
- 辻内 直子
- (高54回)安藤 康伸
- 岡田 尚博
- 加藤 直也
- 丸山 晃正
- (高57回)川口 敦子
- (高58回)石川 航己 企画
- 鈴木 菜穂子
- (高60回)篠原 国智
- 杉浦 綾香 書記
- 本多 健太郎
- 吉村 圭吾
- (高61回)辻 翔太
- (高62回)大山 なつみ 企画
- 粟津 文香
- (高64回)藤岡 進也
- 細井 美裕
- (高65回)村松 旺

編集後記

本号は、第42回総会・懇親会報告特集です。「総会出席者の一言」からは、幅広い年次の皆さん方の総会に寄せる思いや期待が伝わってきます。また、シニア会員の活躍ぶりを紹介する「人生お楽しみ中！」では、今も第一線で活躍中の女性会員のお話です。首都圏段戸会の持つ魅力や強みは「ここだ！」と思えました。  
 現役岡高生との交流を目指した「オープンキャンパス報告」、若手会員の進路選択の際の経験、現在打込んでいる仕事を紹介した「なぜこの仕事を！」、いずれも、岡高生、学生会員、若手会員に向けた先輩たちの熱い思いが伝わってきます。  
 本号は、新しいメンバー15人（世話人名簿の「広報担当」参照）による3号目になります。毎号手探りの編集です。会報へのご意見、要望、提案などを、ホームページの「お問い合わせ」を使って、お寄せ下さい。（村木）

段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています！

「段戸囲碁会」

（代表：藤田 訓弘 高13回）kfujita@muc.biglobe.ne.jp

「段戸音楽会」

（幹事：石川 航己 高58回）koki.ishikawa.49@gmail.com

「段戸句会」

（代表：小森 葆子 高13回）shigeko\_komori@ybb.ne.jp

「段戸山の会」

（幹事：満江 信之 高15回）nmitsue@ae.auone-net.jp